



ウエイ ラ ミン テイエ  
**为了明天**  
 明日のために  
**子どもたちに希望を 人々に友情を**  
 特定非営利活動法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会  
<http://www.sokeirei.org>

**本年も引き続き!!**

## 東日本大震災の復興支援と 日中の青少年・子どもの交流、相互理解のための活動にご協力を!

代表理事 川崎 高志

本年2013年は日中平和友好条約締結35周年となります。今年こそ両国の人々が平和と友好のために、相互理解と信頼を深める一年となってほしいと強く願っています。

昨年は国交正常化40周年の記念すべき年でしたが、秋に起こった日中間の「尖閣」をめぐる政治・外交上の対立により、民間レベルで

の多くの友好交流事業も停止しました。その中でも、日中宋慶齡基金会相互の信頼関係は従前と変わらず、子どもたちの友情をつなげる取り組みを続けてきました。本年も引き続き東日本大震災の復興支援と、日中の青少年・子どもの交流、相互理解のための活動を展開していきたいと願っております。

### 第11回 総会報告

2月24日(日) 午後2時より、第11回総会を開催しました。

東日本大震災復興支援事業としては、2012年7月に宮城県南三陸町を訪問し、復興状況を視察しました。そして佐藤町長及び担当者、保育園長らと保育施設再建支援に関する上海宋慶齡基金会・当会・南三陸町の三者協議書について意見を交換し、再建支援の対象と目されている「戸倉保育園」の候補地を視察しました。併せて、上海の幼稚園児から送られた絵画のメッセージを紹介しました。これらの絵画は、11月のJCC中国講座で「中国児童画展」として、多くの方々に見ていただきました。

2013年度の事業としては、南三陸町の3保育園の卒園児63人全員に、鉛筆削りをお祝いとして贈りました(約5万円)。さらに3月2日から4日まで南三陸町のホテル観洋で、南三陸町と当会の共催で“上海と南三陸の子どもたちの交流絵画

展”を実施し、その過程で支援先の関係者や子どもたち、町民の方々とも親しく交流する機会を持つことが出来ました。交流絵画展は今後、八王子などでも開催いたします。

保育園の再建支援事業は、南三陸町の復興計画に基づき、本年度、計画書を作成し、来年度に建設を実施する予定です。現地と連携をとりつつ、その都度経過報告を行う予定です。中国への教育支援としては、2012年12月に、前年度中断した河北省易県の小中学校5校に机・椅子(60万円)、及び新華字典(40万円)を寄贈しました。本事業はこれで完了し、現地からの報告を待っております。

2013年度は、中国宋慶齡基金会からの要請に基づき、四川省涼山県の小学生約1000人に新華字典を贈る、「愛心字典」プロジェクト(15万円)を実施します。皆様からのご支援をお願い申し上げます。

# 北京・中国宋慶齡基金会 訪問

3月4日(月)午前、中国宋慶齡基金会を訪問し、李寧秘書長らと意見を交換しました。

李寧秘書長は、中国の貧しい地域の子どもたちへの長年に亘る教育支援に対し、日本の支援者の皆様に、心からの感謝の言葉を述べられました。

次いで、中国側から、これからの日中青少年交流の一つとして、毎年実施している、世界25か国500人の青少年が参加する「宋慶齡国際青少年交流キャンプ」に、東日本大震災被災地の青少年を招待したい、との新たな提案がありました。当会としても全面的に賛同し、彼らの国際交通・保険費約50万円の支援を実施します。復興支援の一環として、引き続き皆様のご支援をお寄せくださいますよう、よろしくお願いたします。(川崎 高志)



## 2012年度 収支計算書

2012年1月1日より2012年12月31日

科 目	金 額		
	内 訳	期中小計	期中合計
<b>収入の部</b>			
(I) 寄付金収入合計			28,370,195
正・維持会費		1,000,000	
プロジェクト寄付		27,370,195	
幼児教育支援事業	0		
母子保健事業	5,000		
教育支援事業	343,143		
図書セット寄贈事業	109,000		
東日本震災支援事業	26,438,765		
カンパ	474,287		
(II) その他の収入合計			51,021
中国への理解を深める為の活動		49,000	
中国講座開催	49,000		
預金利息		2,021	
<b>当期収入合計</b>			<b>28,421,216</b>
<b>収支差額前期繰越金</b>			<b>4,351,951</b>
<b>当期収入総合計</b>			<b>32,773,167</b>
<b>支出の部</b>			
(I) 事業支出		1,323,364	
教育支援事業	695,130		
図書セット寄贈	400,000		
東日本震災支援事業	228,234		
(II) その他の支出		124,200	
中国講座開催諸費用	124,200		
(III) 運営費		1,029,944	
振替口座加入者負担	24,560		
事務室管理料	264,120		
水道光熱費	71,427		
旅費交通費	0		
通信費	306,275		
広報活動費	235,025		
会議費	3,900		
国際交流費	24,000		
消耗品費	87,637		
海外送金料	13,000		
原価償却費	0		
雑費	0		
<b>当期支出合計</b>			<b>2,477,508</b>
<b>収支差額次期繰越金</b>			<b>30,295,659</b>
<b>当期支出総合計</b>			<b>32,773,167</b>

## 第21回 JCC 中国講座

2012年 11月10日

# 習近平時代の中国を展望する

朱 建榮氏 (東洋学園大学人文学部教授)

朱建榮氏は、まず、日中国交正常化40周年の記念すべき時に、釣魚島(尖閣諸島)を巡る問題で両国関係が極めて厳しい状況に陥ってしまった事を遺憾とされた。より一層の交流の拡大と深化を目指して200以上ものイベントが準備され、あるいは多くが実施されていた9月に、この問題は起こったのである。このような時だからこそ、日中の相互理解の重要性を再認識し、問

題の本質とその背景について知ることが大切であると述べられた。

講演の前半は「習近平時代」の中国が大きな転換期を迎えていることについて政治、経済、社会の各分野から詳しく論じられた。まず経済であるが、現在の中国経済は発展戦略の転換点を迎えており、鄧小平時代からこれまで30年続いた低賃金、輸出志向の経済拡大戦略を、去年の



第12次5カ年計画から「内需拡大、産業構造の高度化」へ転換することを決定した。経済発展の過程では、格差、環境破壊、情報化などの新しい問題が表面化している。社会面も「公平」「民主化」への転換を余儀なく求められている。鄧小平氏が唱えた発展戦略によって、1980年代から2000年までの20年間は、先富論や量的拡大を進めて、沿海部

を中心にGDP4倍増を目指した結果、成長を成し遂げた一方で、格差の拡大をもたらした。そして2000年以降の2020年までの次の発展段階には、「共同富裕論」を打ちだし、格差是正のための福祉民政重視を進めたが、それから10年過ぎた現在でも、問題が抜本的には解決されず、国民の不満が高まっている。習近平時代の今こそ「公平」「公正」が切実に求められている時期にあたる。このような中国発展の牽引力となっている中間層が約5億人登場している。彼らは共通の行動パターン、情報収集、権利意識を有している。

現在の中国の転換期の現象は、大阪万博前後の日本やソウルオリンピック前後の韓国のように、経済成長の次に社会運動が最も活発な時期を迎えている事である。中国は、経済発展の次に国民が不満を言うプロセスを経て、社会が進歩する段階に突入したと見てよい。

第18回党大会の注目点は、政治指導者の大半が建国後初めて、年齢制限と三選禁止という二つの権力交代のルールによって交代することである。だが習近平がトップに就任したとはいえ当面は集団指導体制がつづく。日本のマスコミで取り上げられる派閥対立という図式は存在しない。新指導部の相談役として前体制のトップであった胡錦濤氏がつくというルールも確立している。中国の人々の習近平への大きな期待は、まず社会の民主化に大きな進展がみられ、次に2020年ごろには政治の民主化に着手するであろうという見通しに在る。

これからの中国は、ぶれない長期戦略、新基幹産業の育成、内陸部の広い発展空間と、強力な指導体制によって諸問題をコントロールする

能力を持っているので、安定性や漸進性を重んじながら、改革を進めつつも毎年7～8%の高成長を2020年まで維持するだろう。他方、少子高齢化や厳しい外部環境、経済発展の裏で現れてきた環境汚染や国民の不満に対処しながらの産業構造の転換は容易ではない。

講演の後半では懸案の日中関係について論じられた。両国関係もまた新たな調整期に突入している。両国間には①「過去」の問題②地政学的問題③関係拡大に伴う摩擦④心理的問題という4つの側面が存在する。当面の一連の問題の背景には④の心理的問題があり、日中相互に「二強関係」への不適應や、信頼関係の欠如や、さらにナショナリズムを強調する勢力が存在する。また、日中の力のバランスをコントロールしたい米国ファクターもあり、今は両方が自信を無くし、相手の意を汲む状態になっていない。

尖閣諸島の問題については、私見が『世界』11月号にも掲載されているが、「領土紛争」の有無をめぐっては、両国の駆け引きは当面続くであろう。銭其琛元外交部長が嘗て国家間では民族問題、宗教問題及び領土問題の三つの問題は、「触れてはならない」と語られた。残念ながら今の日中関係は、この領土問題に囚われてしまった。

では今後の日中関係はどうなっていくのか？現状は両国とも当面次の政権での関係改善のタイミングを計っているようだ。中長期的課題としては、両国がお互いに「疑心暗鬼」な態度を除去すること。関係がさらに悪化して戦争となることはあり得ないが、対立を煽る勢力は双方に存在する。中長期的には日中両国の大半の人々が望んでいる、互いの信頼関係と交流パイプを再建し、日中韓FTAの推進で共同体としての「共通項」を拡大し、長期的な未来志向のために共々に取り組んでいくことを願っている。

以上のように、朱建榮氏のお話は、日中の政治外交がもっとも厳しい局面にあった時に、両国の現状と課題について、とても丁寧に分かりやすく、時にはユーモアを挟んでお話し下さいました。また、これからも日中の市民同士の相互理解の推進についても、暖かく励まして下さった。深く御礼を申し上げます。

(文責 川崎 高志)

# 南三陸と上海の子どもたちの交流絵画展

## 盛大に開催される 添えられた子どもたちの温かいメッセージ

3月2・3・4日 ホテル観洋ロビー

### 副代表理事 諏訪 きぬ

上海宋慶齡基金会を通し東日本大震災のお見舞いとして送られてきた34枚の中国の子どもたちの絵画。

すでに昨秋の中国講座の会場で一部展示を行いました。この作品をどのように南三陸町のお子さんたちに届けたらよいか、模索してきました。

南三陸町立名足保育所長の三浦房江先生に窓口になっていただき、連絡を取り合いながら、絵画展実現の日を心待ちにしていました。志津川保育所の佐藤盛子所長、伊里前保育所の小竹ひろ子所長、三浦所長の素晴らしい連携プレーで、3園の年長児一人ひとりが“励ましへのお礼の絵”を描こうとの方向が決まり、職員の方々の並々ならぬご尽力によって実現したのが今回の南三陸と上海の交流絵画展でした。

### 願ってもないホテル観洋ロビーでの児童画展

私と磯貝光子理事・井岡今日子理事の3名は、3月1日13:30 仙台駅前発のホテル観洋のシャトルバスに乗り込みました。多少とも前日の準備に間に合わせたいとの気持ちから考えたスケジュールでしたが、私たちが着い



た頃には、ホテル観洋の広々とした明るいロビーに中国側33枚、南三陸側34枚の絵額が見事に展示されていました。

南三陸・志津川湾が眼前に広がる美しいロビーに飾られた幼子の絵画は、宿泊客たちの目に留まりやすく、入浴の行き来に足を止めて見入ってくれる姿が数多く見られました。展示会場がぎりぎりまで決まらなかったのは、「出来るだけ人目のつくところで…」との南三陸町役場保健福祉課スタッフの方々や保育所職員の皆さまのご苦心の跡だったのだと、その場に立って納得できたのでした。南三陸町の皆さまの温かいお心に励まされ、感謝、感謝の会場づくりでした。

### テープカットとNHK仙台の取材で開幕

3月2日早朝に井岡健副代表も到着し、10時から菅原一巳主任の司会でオープニングセレモニーが始まりました。最知明宏課長・ホテル観洋外内商治常務・園児代表山内明仁君とお母さん、私がテープカットし、続いて最知課長と私が挨拶。その後3園の園児代表に宋慶齡基金会JCCから「素敵な作品をありがとう!」「がんばって1年生になって下さい」とのメッセージを込めて鉛筆削りを贈呈し、記念撮影をしてセレモニーを終えました。

### NHK仙台の地方ニュースで紹介される

NHKの記者の話では「12時のニュースに流れる予定」とのことでしたので、参会者のお茶のひと時も早々に切り上げて、3園の所長さんたちと一緒にホテルのテレビにかじりつきました。12時10分過ぎのローカルニュースの時間に「上海から贈られた児童画に南三



陸の子どもたちが応え、交流絵画展が行われています…」と映像に合わせ的確な紹介がされました。夕方6時、夜8時45分からのニュースの時間にも流されたため、「テレビを見てやってきた…」という声も耳に届き、嬉しい思いを味わいました。

### 30余名もの中国から来た花嫁さんも

日曜日に当たった3日には、園から親子連れ、祖父母連れで絵画展を見に来てくれました。「うちのこの子は、この佐藤所長さんのおかげで命拾いした」と絵を見ながら涙ぐむおばあちゃん。「子ども2人を連れて中国に里帰りしていて助かった。お父さんも助かったけど、家も何もかも流された。一生懸命に働かないわ!」と中国・甘肅省から来たという



お母さん。ここにももう一つの日中友好の絆がありました。

### 力強く描かれた南三陸の子どもたちの絵

何よりも心打たれたのは、嬉しそうに自分の描いた絵を指さす子どもたちの屈託ない笑顔でした。そこには「ひこおきにのってにはほんにあそびにきて!」「にほんのさくらはきれいだよ」「いっしょにあそぼうね!」と可愛らしいメッセージが添えられています。上海からのメッセージ「たくましくたちあがれ!」「このまほうのおうちがあなたたちを守ります」に精一杯応えて描いたのでしょうか。南三陸の子どもたちの絵は、大津波にもめげず逞しく堂々と輝いていました。このような素晴らしい絵画展をまとめ上げてくださった南三陸町の皆さま、ありがとうございました。この交流絵画展が幼子の心に抱かれて、日中友好の“一粒”になれば…と思います。

本日ここに日中共同児童絵画展を開催するにあたり一言ご挨拶をさせていただきます。

東日本大震災発生からまもなく丸2年を迎えようとしております。これまで多くの皆様方からご支援や励ましをいただき、町として復興に向け多くの事業を進めているところでございます。特に、次世代を担う子供たちの健全な育成は、町の復興に向けた重要な取り組みと位置付けており、平成25年度には保育所等の復旧に向けた事業を開始してまいります。

さて、今回の児童絵画展に際しましては、NPO法人 宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会様のご協力をいただき、開催の運びとなりましたこと、心より御礼申し上げます。

同委員会様は、復興支援の一環として、震災後早くから、本町の保育所・保育園にご支援をいただき、会員様自らが町を訪れ、励ましをいただいているところであります。

このたびは、南三陸町を **ごあいさつ** 励ますため、中国の子供達の絵を送っていただき、これを機会に本町の子供達と中国の子供達との交流を深めていくために、絵画展を開催する運びとなりました。

この絵を通じて被災した子供たちが元気に活動している様子をお伝えするとともに、ご覧いただいた皆様方が復興に向けた取り組みへの活力につながることを願っております。

結びに、児童絵画展開催にご尽力いただきました宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会の皆様にご改めて御礼を申し上げますとともに、会場をご提供いただきましたホテル観洋様にも心から御礼を申し上げ、開催に当たり、あいさつとさせていただきます。

平成25年3月2日

南三陸町長 佐藤 仁

尖閣諸島をめぐる領土問題が、日中間の政治経済に緊張をもたらす中、両国の宋慶齡基金会は民間の友好を継続するためにメッセージを發しました。

## 宋慶齡基金会JCCから

中国宋慶齡基金会 胡啓立主席 殿

1983年に、中国宋慶齡基金会より宋慶齡基金会成立のメッセージを受け、私たち日本人有志は、近代における我が国の貴国侵略の歴史認識を踏まえ、贖罪に併せて両国の次代の健全な育成と東アジアの発展と世界平和に寄与することを願って、翌年9月、宋慶齡日本基金会を設立しました。以来28年目を迎えています。途中、2000年11月に、宇都宮徳馬会長の逝去に伴い、組織・名称の変更がありましたが、初志を堅持して、現在に至っています。

私たちは、領土問題の扱いの行き違いで、最近こんなに激しく対立することに違和感を覚えています。両国の指導者の叡智ある対応を切望するばかりです。

日中両国の宋慶齡基金会に課せられている使命は、両国のみならず世界の次代の健全な育成に微力を尽くし続けることと東アジアの発展と世界平和を願い、寄与することです。現在と未来のために、どんなことがあっても、常に、友好と平和への道を一步でも進むほかありません。この努力のプロセスで貴会の皆様と手を携えることができると確信しています。

「政冷経冷」の状況にあつてこそ、我々民間団体の「暖かい活動」で難問を氷解させる『政冷経冷民暖』の貴重な役割を負って参ります。

貴会のご発展を祈念いたします。

2012年10月20日

NPO法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会 理事会

## 中国宋慶齡基金会から

このたびは、誠意ある書状を頂戴し、皆様が中日平和友好事業への情熱と、両国の民間交流の重視、及び両会協力の深化への期待を示されたことに、私達は親近感を深め、感動を覚えました。

光陰矢の如く、振り返れば両会の協力はすでに28年の歴史を刻んで来ました。その間、貴会の構成や名称に変化はありましたが、両会の協力関係はご指摘の通り、「初心を忘れることなく、今に至るまで堅持」されています。これは、両会が共同で中日友好事業を推進するという信念を追求し、かつまた時間の経過と環境の変化の中で得た経験による賜物であり、両会が共々に光栄とするものであります。

本年は、当会設立30周年であり、この間の活動はすべて国内外の友好団体と友好人士の多大なご支持と切り離せません。貴会は成立当初から、宋慶齡児童科学技術館建設、母子保健事業、寧夏女子師範生プロジェクトなど多くの分野で私達に多大な支援をして下さいました。長年に亘って、貴会は中国寧夏、河北、内蒙古、貴州などの経済的に立ち遅れた地域の貧困扶助・教育支援活動を積極的に支持し、当地の青少年の教育を支援し、文化事業の発展を推進し、中日両国人民の友誼増進を積極的に推し進める役割を果たされました。

時は過ぎても、貴会が長年に亘って日本の友好人士の方々と代表団を組織して寧夏を現地視察された情景を、私達はいまだ鮮やかに記憶しています。また、貴会が様々な困難を乗り越えて、中国の公益事業を支援して下さいたことは、中国人民の心に深く刻まれています。

貴会が進めてきた中日友好事業の全てのプロジェクト活動に対して、私達は心からの敬意と感謝を表します。

近年、当会も中日民間の友好促進のために、数々の積極的な取り組みと努力を行なって来ました。中日国交正常化40周年を記念して、本年2月に当会は日本の東日本大震災の被災地に中国青少年訪日慰問団を派遣し、成果を収めることができました。本年3月28日から4月4日まで、当会は、被災地—福島県、茨城県、岩手県、宮城県—から青少年115人を中国への癒しの旅に招待し、大きな反響を呼びました。

近頃、釣魚島（尖閣諸島）問題が両国関係に暗雲をもたらし、両国人民の正常な交流往来に直接影響を及ぼしていることに、私達も大いに遺憾に思います。宋慶齡の名を冠する基金会として、中日両国の平和友好事業を促進する、という信念は決して揺るぎません。

私達は、今後も貴会との協力をさらに深め、両国の友好を促進し、世界平和を擁護する崇高な事業に努力し、尽力します。

最後に、貴会に心からの感謝を申し上げ、併せて、両会の友誼が永遠であり、貴会の各事業が益々発展することを祈念いたします。

中国宋慶齡基金会主席 胡啓立

2012年11月19日

## 追悼

# 三浦 克(ヨシ)さん

享年 88歳11カ月

三浦克さんは、本年2月1日に不調を訴えられ、急遽入院され、一時的には回復のご様子も見られましたが、6日早朝危篤になられ急逝されました。1月19日の宋慶齡基金会JCCの事務局会議には、お元気な笑顔を見せて下さり、その後すぐ、手作り絵本の展示会に新作を出品され、1月30日には、長年サービスされて来た西八王子駅構内の“生け花”を新たに生け替えられたのです。

最後の枕辺には、辞世の言の葉が幾度かに分けて綴られていました。ご家族と友人たちへの感謝で溢れていました。久しく茶飯の如く短歌を読み続けられて来た三浦さんらしいご逝去でした。命尽きる瞬間まで、三浦さんは聡明で、精一杯にできる事をなさいました。

“現代の語り部”の異名をもつ三浦さんは昨春、数人のお仲間と大震災被災地四、五か処を訪れ、子どもたちや大人たちを励ますために、様々なお話をなさいました。多分、圧巻は、よく語られてきた“三浦さんの半生”だったと想像します。九州の名家のご出身ですが、最初のお子さんを宿された体で関東軍将校の夫君を追って中国東北(満州)に渡り、北安の病院で早産のご長女を失い、やがて敗戦で兵士を率いてシベリアに抑留される夫君を見送ったあと、ソ連兵に追われ、困苦に耐える収容所暮らしの中で、凍傷で両脚を失い、新潟出身の一人の青年に助けられ、背負われ、コロ島から帰国し、三年待つ、夫君が復員、再会する物語は、誰の心にも“一生懸命生きる”力を伝える事になったでしょう。また、このお話の後では必ず、「戦争は、二度とあってはならない。人々の喜びや楽しみや豊かさは、平和の中



にしかない。」と、締め括られました。戦争は、加害者であっても被害者であっても、人々を最悪の悲惨に巻き込む事を証言なさりたかったのです。

語り部を終えて福島から帰った三浦さんは、まもなく救急入院される事になり、大動脈にダメージを受けている事が解ったのです。危篤状態に陥りましたが、奇跡的に回復され、1月の会合では「もう一度、中国に行きたい…」と、おっしゃったのです。

三浦さんが宋慶齡基金会の活動に初めて参加されたのは、25年前の1988年5月～6月に開催された中国宋慶齡基金会主催、第一回北京紙手工芸展でした。中国美術館の日本コーナーに東京(港区、八王子市)・横浜の幼稚園児の作品、出版社の協力による沢山の絵本、新旧の紙手工芸作品が展示されましたが、その中で、三浦さんは、自作の手作り絵本『どじょうのおやこ』を読み聞かせ、折り紙を実演され、その光景を中央電視台が放映したのです。

三浦さんはひそやかに輝きを放って下さった得難い一輪の華(ハナ)でした。

(久保田 博子)

2012年

- 6月16日 第92回事務局会議  
 7月21日 第93回事務局会議  
 7月26日 川崎高志代表、諏訪きぬ副代表・井岡健副代表：南三陸町を訪問
- ・上海宋慶齡基金会在南三陸町の保育園再建を支援するプロジェクトに関する協定書と支援金の目録を佐藤仁町長に手渡し、再建計画を聞く。支援対象である戸倉保育所の再建予定地を視察。
  - ・「南三陸と上海の子どもたちの交流絵画展」の実施可否について検討依頼。
- 8月7日 井岡今日子理事：JCCが建設を支援した中国貴州省三か樹鎮賞朗小学校訪問。  
 9月15日 第94回事務局会議  
 10月12日 中国河北省易県の小学校に対し「机・いす」及び新華字典を寄贈するための支援金100万円を送金：協定書に定められた3年の期間の最終年度に当たり、当プロジェクトは全て完了。  
 10月20日 中国宋慶齡基金会、上海宋慶齡基金会对し、民間交流継続のメッセージ発信。

- 10月20日 第95回事務局会議  
 11月10日 第96回事務局会議  
 11月10日 第21回JCC中国講座：朱建栄さん「習近平時代の中国を展望する」／上海のこどもたちの絵画展示会を同時開催。  
 11月19日 中国宋慶齡基金会よりメッセージ  
 12月15日 第97回事務局会議  
 12月 寧夏固原県の小学校に対し、新華字典を贈呈

2013年

- 1月19日 第98回事務局会議  
 2月24日 第33、34回理事会、第11回総会  
 3月2日～4日 “南三陸と上海の子どもたちの絵画交流展”南三陸町と共催：諏訪きぬ副代表・井岡健副代表・磯貝光子理事・井岡今日子理事、南三陸町で活動  
 3月16日 第99回JCC事務局会議  
 4月20日 第100回事務局会議  
 5月2日 JCCニュース「為了明天」23号を発行

## 第22回 JCC中国講座

予告

### 日中間の領土問題をどう考えるか 相互信頼を勝ち取るための努力の必要性

村田 忠禧氏 (横浜国立大学名誉教授 神奈川県日中友好協会副会長)

領土問題は狭隘な愛国主義を煽る手段として常に利用されてきた。今日の「尖閣諸島」問題もまさにその通りである。見解に対立が発生しても、冷静になって相手の主張にも耳を傾け、事実を重んじる態度を堅持すれば「災い転じて福となす」ことになりうる。本報告では日中の公的文献などを丹念に調べることで明らかになった真実を紹介し、日本と中国が共に手を取り合っ

日時 2013年5月18日(土)  
午後2時～

場所 八王子プラザホテルB1ホール

参加費 500円

[主催] NPO法人 宋慶齡基金会  
日中共同プロジェクト委員会

**編集後記** ■4月20日、再び、中国の四川省で M7.0の大地震。震源地は成都南西の山間部でパンダの故郷にも近いと聞く。5年前の5月の震源地は、今回の北約100キロで、M8.0だった。■今回は150万人余が被災し、民家の99%が倒壊したとも伝えられている。■南三陸町の保育施設再建支援もやっと先が見え始めたところであるが、再び四川に手を差し伸べたい。傷ついた人々が瓦礫の中から立ち上がり、子どもたちが希望を持つ事が出来るように応援したい。 I/K

「為了明天」No.23

2013年5月2日発行

編集：久保田博子  
井上 睦子  
題字：周 肖

発行者：

NPO法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会  
代表理事 川崎高志

〒192-0904 東京都八王子市子安町1-43-6-206  
TEL/FAX 042-646-4210

郵便振替：00170-2-152423

三菱東京UFJ銀行八王子支店(普通)4731623